



学校生活から考える 日本のバリアフリーの問題と解決策

高校1年

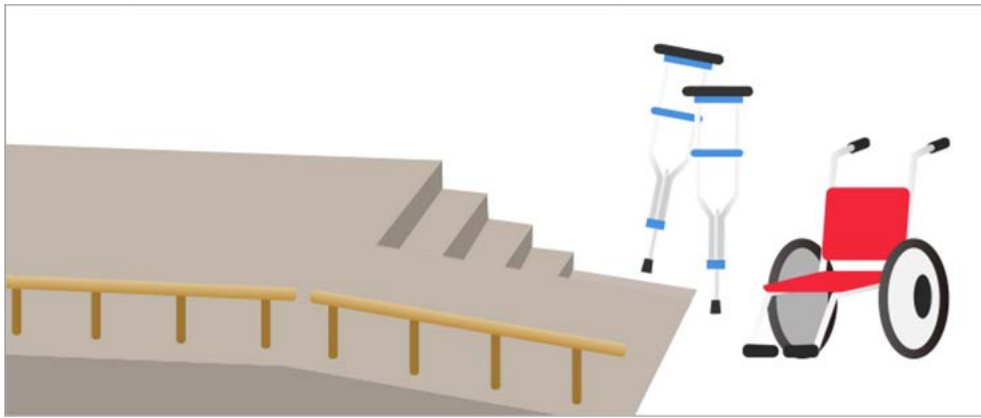


バリアフリー

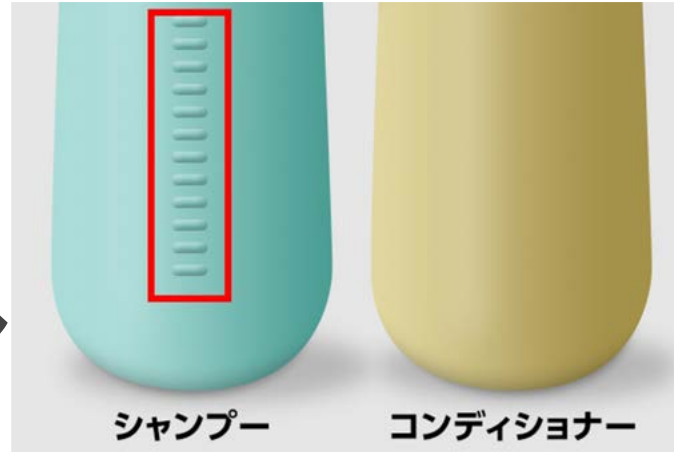


ユニバーサルデザイン

バリアフリー



ユニバーサルデザイン



1. 先行研究

対象		令和2年度	令和4年度	令和7年度末までの目標	
バリアフリートイレ	校舎	65.2%	70.4%	避難所に指定されている全ての学校に整備する ※令和4年度調査時点で総学校数の約93%に相当	
	屋内運動場	36.9%	41.9%		
スロープ等による 段差解消	門から建物の前まで	校舎	78.5%	全ての学校に整備する	
		屋内運動場	74.4%		77.9%
	昇降口・玄関等から教室等まで	校舎	57.3%		61.1%
		屋内運動場	57.0%		62.1%
エレベーター	校舎	27.1%	29.0%	要配慮児童生徒等が在籍する全ての学校に整備する ※令和4年度調査時点で総学校数の約41%に相当	
	屋内運動場	65.9%	70.5%	要配慮児童生徒等が在籍する全ての学校に整備する ※令和4年度調査時点で総学校数の約76%に相当	

2.研究の動機・目的

動機

- ①祖母が障害を持っていて外出時に困っていることが多いため。
- ②多様性が尊重されてる今、障害を持つ人だけが取り残されていると感じたため。

目的

障害を持つ人の目線に立ち、検証を通して問題点や解決策を見つけ、より過ごしやすい世の中にするため。

3. 検証の方法

検証内容

車椅子でも同じような学校生活ができるのかを車椅子乗車体験を通して検証していく。



検証項目

- ①自力で学校の前のスロープを渡れるか。
- ②自動販売機は車椅子に乗っていても一番上の商品を買えるのか。
- ③車椅子に乗ったままいつも座っている席まで行けるのか。
- ④授業中の黒板の見え方の違いはあるのか。
- ⑤6階のトイレは車椅子で入れるのか。
- ⑥クラス（6階）から1階までの多目的トイレまで、
休み時間（10分）で授業に間に合うのか。

条件

- ・一日中車椅子に乗る。
- ・人の手はなるべく使わないようにする。

※この期間中は車椅子以外で移動してはならない。

(今回の場合、障害は下半身麻痺とする。)

4.結果

①自力で学校のスロープ登れるか。

予想：登ることができない。

結果：登ることができた。



②自動販売機は車椅子に乗っていても一番上の商品を買えるか。

予想：できる。

結果：上まで買うことができた。



③車椅子に乗ったままいつも座っている席まで行けるか。

予想：行けない。

結果：行くことができた。



④授業中の黒板の見え方の違いはあるのか。

予想：変わりはないと思う。

結果：いつも使用している椅子より車椅子のほうが高かったが見え方に違いはなかった。

⑤6階のトイレは車椅子で入れるのか。

予想：入口が入り組んでいるため、通れない。

結果：時間はかかったが洗面所まで行けることができた。

⑥クラス（6階）から1階の多目的トイレまで、休み時間（10分）で間に合うことができるのか。

予想：間に合わない。

結果：間に合うことが出来た。



5. 検証を通しての問題点

① スロープ

- ・ 傾斜が少しくつい。
- ・ スロープの曲がり角のスペースが小さい。

② トイレ

- ・ 生徒が生活をしている階に
車椅子用トイレはなく 1階にある。
- ・ 車椅子用トイレが荷物置きになっていた
→ 使う人がいないからいいや.....



6.問題解決策

①スロープ

- ・簡易的昇降機の設置。
- ・スロープの傾斜を緩やかにしたり、スロープ幅を大きくする。

②トイレ

理想：各階に車椅子トイレを設置する。

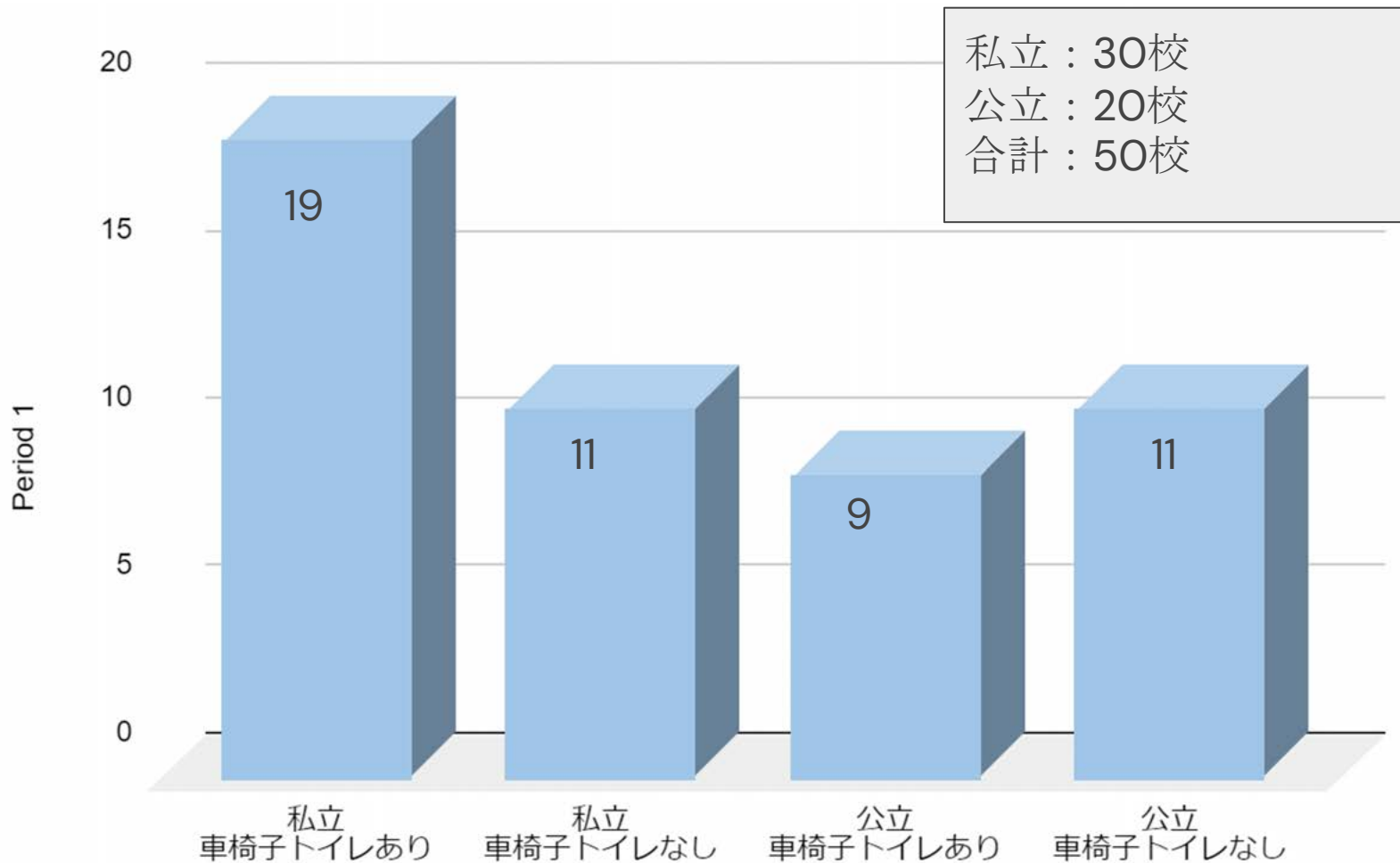
- ・奇数階ごとなどの設置。
- ・個室のスペースの拡張。
- ・車椅子で移動できるスペースの確保。
- ・いつでも利用できる環境を整える。倉庫の代わりにしない。

実は

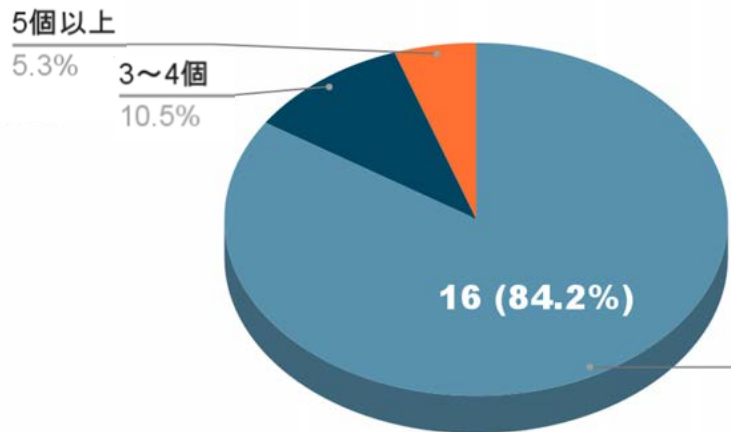
もう1つ検証をしていた.....

「一人で水道橋駅から学校まで行けるか」

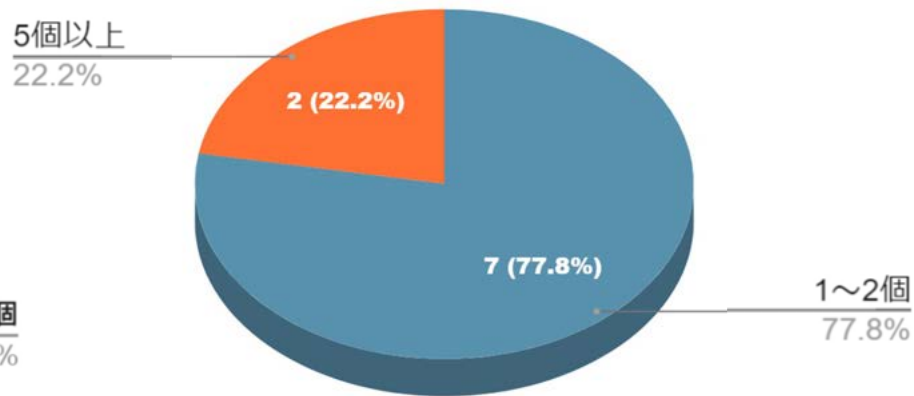




私立



公立



7. 考察

- 完全なバリアフリーというのは不可能。
- 障害者の気持ちは障害者の人たちにしか分からない。
↓
- 私達の少しの気遣いや、思いやりを持つことによって、バリアは小さくできる。
- 机の幅を大きくし、車椅子でも余裕をもって入れるようにする。
- 教室の扉のレールを上だけにする。

8.反省点

- 目的に学校生活を通して体験すると掲げたが、実際はクラス内の授業に限定してしまった。移動教室や部活動なども検証の中に取り入れるべきであった。
- 検証日を1日にするのではなく、複数日にするべきだった。
- 検証者を1人にするのではなく、複数人で行うとより多くの意見が出たと思う。
- 今回は生徒が障害者であるという設定で実施をしたが、先生が車椅子であったらという検証もするべきであった。

今後実施したいこと

- ・ 障害者の気持ちを知ってもらうため、
車椅子乗車体験をする。（ワークショップ）
- ・ 障害者の方々と本当のバリアフリーというものは
なにかについて話す
- ・ 障害者の人にインタビュー

など

9.参考文献・参照文献

参考文献：

応辞苑 バリアフリー <https://sakura-paris.org/dict/?romaji=0> 1/7

文部科学省 学校施設のバリアフリー化の推進

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/mext_00003.html 1/30

参照文献：

バリアフリー入門編 著者名：もり すぐる

出版社：緑風出版

出版年：1999年6月15日

協力者：

高井理左 カメラマン

渡邊虹心 カメラマン

クラスメイト 地元の友人